

しまのゆんたくin伊平屋

持続・発展可能な地域コミュニティの形成に向けて

沖縄総合事務局職員と地元行政機関、地域住民等が「ゆんたく」し、地域活性化のきっかけになることを目的に「しまのゆんたく」を開催しています。

※ゆんたく＝沖縄の方言で「おしゃべり・談話」



去る1月21日(水)に、豊かな自然や琉球王朝時代の名所・旧跡が数多く存在する「原風景の島」伊平屋島において、「しまのゆんたくin伊平屋」を開催しました。

会合に先立ち、「ヤイトハタ(アーラミールバイ)養殖場」、「製糖工場」、「精米所」等を伊礼村長の案内により視察し、施設の活用状況や老朽化問題等の説明を受けました。その後、我喜屋公民館において、村役場、各区長、村内各種団体、沖縄県、沖縄総合事務局等から約70名が参加し、「しまのゆんたく」を行いました。

地元からは、人口の減少、若い人材の不足、農業・漁業の担い手不足、子育て環境の向上、村営住宅の整備等の経済・生活環境の現状や課題が紹介され、島の基幹産業を担う製糖工場・精米所の老朽化対策、我喜屋ダムの利水、山羊畜産への支援等の要望がありました。

これらの課題や要望に対して、沖縄県、沖縄総合事務局等から、地域住民が実施主体となる地域振興策、新規就農者支援策、農村の活動や営農の継続

支援策、6次産業化支援策、地域資源を活用した事業化支援策、観光振興策等が紹介されました。

その後、集落営農・6次産業化による儲かる農業に向けた取組、集落内の空家を利用した住環境の整備、民泊等観光産業の推進、製糖工場・精米所の老朽化対策(建替え等)が必要である旨、活発な意見交換が行われました。

会合の終わりに、伊礼村長から「伊平屋村では、島に生まれ、島に誇りをもち、島に住んで良かったと思えるよう、今日の「ゆんたく」の要望や意見を尊重し、引き続き、地域住民と一体となって島の発展に頑張っていきたい」



我喜屋区長



伊礼伊平屋村長



河合沖縄総合事務局長



旨、発言がありました。当局では、今回の「ゆんたく」を踏まえて、伊平屋村における地域活性化の取組を沖縄県や関連団体とも連携して支援するとともに、他の離島等においても、地域の発意による地域活性化のお手伝いをしてまいります。